

第7回 夕張シューパロダムモニタリング部会（平成30年12月26日）指摘事項と対応

委員	指摘事項	当日の回答及び対応
泉委員 (部会長)	自動観測と定期調査の水質調査結果は同程度の値になっているか。	メンテナンスし、現地測定と同様の数値が出るようになっている。
岡村委員	侵略的外来種の侵入経路・分布確認はある程度できているので、モニタリングの評価とフォローアップ調査計画に「今後の工事などにおいて対策を検討する」と踏み込んで記載してはどうか。	今年度外来種駆除を実施した。 今後の調査の留意点として、対策についても記載する。
中井委員	水源地域動態調査に景観調査は、通常含まれていないが北海道では同時に実施している。 今後の水源地域利用に生かしてほしい。	水源地域動態調査と同時に景観調査も実施し、今後の利活用の参考としていきたい。
	全ての景観ではなくて良いので、視点場から見える景観の維持管理をしっかりとしてほしい。	景観の維持管理の留意点に「視点場」というキーワードも記載する。
松井委員	大夕張ダムと夕張シューパロダム間の水質も確認できる調査計画となっているか。	大夕張ダムと夕張シューパロダムの間も、確認できる水質調査計画とする。
	選択取水により濁質を下流に流さないことで、大夕張ダムより堆砂が思ったより早く進むことはないか。注視した方が良い。	基本的には大夕張ダムの実績を基に堆砂容量を設定したので、想定内で収まると考えている。引き続き注視していきたい。
眞山委員	枯死立木周辺は、外敵からの避難場所、幹の下は餌生物の生育場所、産卵場となると思う。今後、建設中のダムや再開発中のダムの調査で注視していくべきか検討が必要である。	参考にする。
柳川委員	ダムができて間接的に種間関係が変わるので、対象猛禽類の繁殖状況を把握するだけでなく、対象以外の猛禽類の繁殖状況にも留意すること。	留意していく。
	コウモリについては、森林性・動物性どちらも確認されたので、かなり対策が実施されており、だんだん効果が出てきた。引き続き河川水辺の国勢調査で確認していくこと。	河川水辺の国勢調査での確認に努める。

当日欠席委員の事前説明時の指摘事項と対応

委員	指摘事項	当日の回答及び対応（案）
岩佐委員	ヒメギフチョウは標高や地形にも影響を受ける。オクエゾサイシンの移植箇所において、卵塊が確認されており地域の個体群維持につながっているといえる。	参考にする。
	多様な生息環境の指標として、オオルリオサムシに注視する必要がある。	河川水辺の国勢調査での確認に努める。